

第Ⅲ章 認定社会福祉士の「資質」・「能力」の自己評価と「役割」

調査項目の大項目Ⅲについては、①の設問では、認定社会福祉士の「資質」や「能力」が、認定前と現時点とではどの程度向上したと感じているかの自己評価について、②の設問では、認定社会福祉士が担うべきとされている「役割」について、現時点でその「役割」を担っているか、について確認しました。

Ⅲ. 次の認定社会福祉士制度（以下「認定制度」という。）に関連する規程等に掲げられている、認定社会福祉士が有するべき「資質」や「能力」、また、認定社会福祉士が担うべき「役割」について、次の①から②までの設問にお答えください。

① 認定社会福祉士が有するものとされている「資質」や「能力」(前述の【参考】の規定等を参照)について、あなたは、認定を受ける前と現時点とを比較して、どの程度向上したと感じていますか。次の①から⑤までの項目それぞれについて、向上したと感じる度合いを、0～5の6段階で自己評価してください。(次の表の該当する番号に1つだけ○印)

「資質」や「能力」の向上についての自己評価を「社会福祉士の倫理綱領に基づいた実践」、「高度な専門知識を用いた実践」、「熟練した技術を用いた実践」、「他職種と連携した実践」、「地域福祉の増進に寄与する実践」の5項目それぞれに、0から5ポイントで、どの程度それらが向上したと感じるかについて尋ねました。

結果は、すべての項目について3ポイントという評価が最も多く、すべて100名を超えており、「熟練した技術を用いた実践」については126名が3ポイントと自己評価しています。一方、0ポイントという自己評価についても、すべての項目で40名以上ありました。また、1と2ポイントの合計と、4と5ポイントの合計を比較すると、これもいずれの項目も1と2ポイントの合計の方が多いため、認定社会福祉士となっても、現状では「資質」や「能力」の向上についての自己評価は全体的に低いという傾向が確認できました。

Ⅲ①資質や能力の向上								
自己評価→	0	1	2	3	4	5	不明	全体
①社会福祉士の倫理綱領に基づいた実践	41	37	60	116	73	16	9	352
②高度な専門知識を用いた実践	40	47	76	119	52	9	9	352
③熟練した技術を用いた実践	44	48	68	126	50	7	9	352
④他職種と連携した実践	48	42	62	117	61	14	8	352
⑤地域福祉の増進に寄与する実践	48	50	72	108	57	8	9	352

**② 認定社会福祉士が担うものとされている「役割」(前述の【参考】の規定等を参照)について、あなたは、現在、その「役割」を担っていますか。次の①から⑦までの項目それぞれにお答えください。
(次の表の該当する番号に1つだけ○印)**

現時点で、認定社会福祉士が担うべきとされている「役割」を担っているか、について、「複数の課題のあるケースの対応を担っている」、「リーダーとしての役割を担っている」、「人材育成において指導的役割を担っている」、「地域や外部団体との対応窓口(緊急対応、苦情対応などの窓口として関わること)を担っている」、「関連機関と連携・連絡調整をする役割を担っている」、「職場内でコーディネートを行う役割を担っている」、「自身の職場・組織の立場から発言をする役割を担っている」の7項目について、「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」の3択で回答を求めました。

その結果、すべての項目において「はい」とする者が200名を超え、「地域や外部団体との対応窓口(緊急対応、苦情対応などの窓口として関わること)を担っている」の項目以外は、全体の3分の2以上でした。地域や外部団体との対応窓口に関しては、「いいえ」が47名、「どちらともいえない」が92名と他の項目との比較ではやや高くなっています。

Ⅲ②認定の役割を担っているか否か					
	いいえ	どちらとも いえない	はい	不明	全体
①複数の課題のあるケースの対応を担っている	30	50	267	5	352
②リーダーとしての役割を担っている	41	75	231	5	352
③人材育成において指導的役割を担っている	36	71	241	4	352
④地域や外部団体との対応窓口を担っている	47	92	207	6	352
⑤関連機関と連携・連絡調整をする役割を担っている	21	62	264	5	352
⑥職場内でコーディネートを行う役割を担っている。	34	91	221	6	352
⑦自身の職場・組織の立場から発言をする役割を担っている	33	77	236	6	352